



津別留学班 報告

2019年12月7日

報告者 和泉優大

目次



- 津別留学の概要：問題意識や目的、概要など
- 今年やってきたこと 事例の調査、まちづくり会社との関連
- ビジネス的な考え 整理した内容
- 実施者について 域内経済の話、観光協会とまちづくり会社

津別留学の概要

2017年度までの課題・問題意識

広い町域と引き換えに観光資源の「孤立化」
地域資源の知名度向上
外部との交流増加



新たな観光プラン策定の必要性

津別留学の概要

2018年度HALCC

「津別留学」の提案

目的：観光ルート策定による津別「ファン」の獲得
対象：首都圏の小学4年生から中学3年生
形式：3泊4日の宿泊・体験学習形式
概要：津別でしか体験できない体験型教育を提供

今年度の活動

反省点

- 事業として成立するのか
- 企画、引率などの運営主体は「誰」が担うのか



提案プランの見直し

運営主体の検討

提案内容の見直し

まちづくり会社、松林マネージャーによる「出張講義」



重視したのが

対象者の細分化
他との差異化



誰に売り込むか
どう「響かせる」か

対象者の細分化

首都圏の小学5年生から中学3年生

首都圏のどういう子？
誰が旅費を払うのか？
旅費は高額では？



親 別の学習から発展要求
下手なごまかしは×
小細工は効果なし
私立小中学校の親？
私立の中でも高学費
マスコミ<教育のソース
習い事、塾は当たり前
下心は見抜かれる

子 下手なごまかしは×
小細工は効果なし
私立校などに通学
学びも遊びも欲す
未体験の自然
受験を「目前」
観光以外の楽しみ
本当の「もてなし」

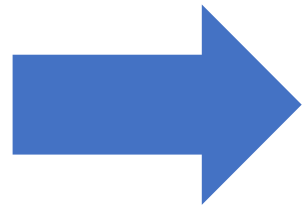
例：有名私立小中学校を抽出し宣伝の実施

他の体験観光との差別化

同じプランでは「魅力」がない

他の体験プラン

地方に行こう
自然の中で遊ぼう
ものを作ろう
美味しいものを食べよう



津別だからできる観光プラン

生産から加工まで
森→製材→木工

五感で木育

運営主体の検討

誰が、「実施」するのか

現場の仕事：引率、案内、運転、安全管理

裏方の仕事：交渉、宣伝、調達

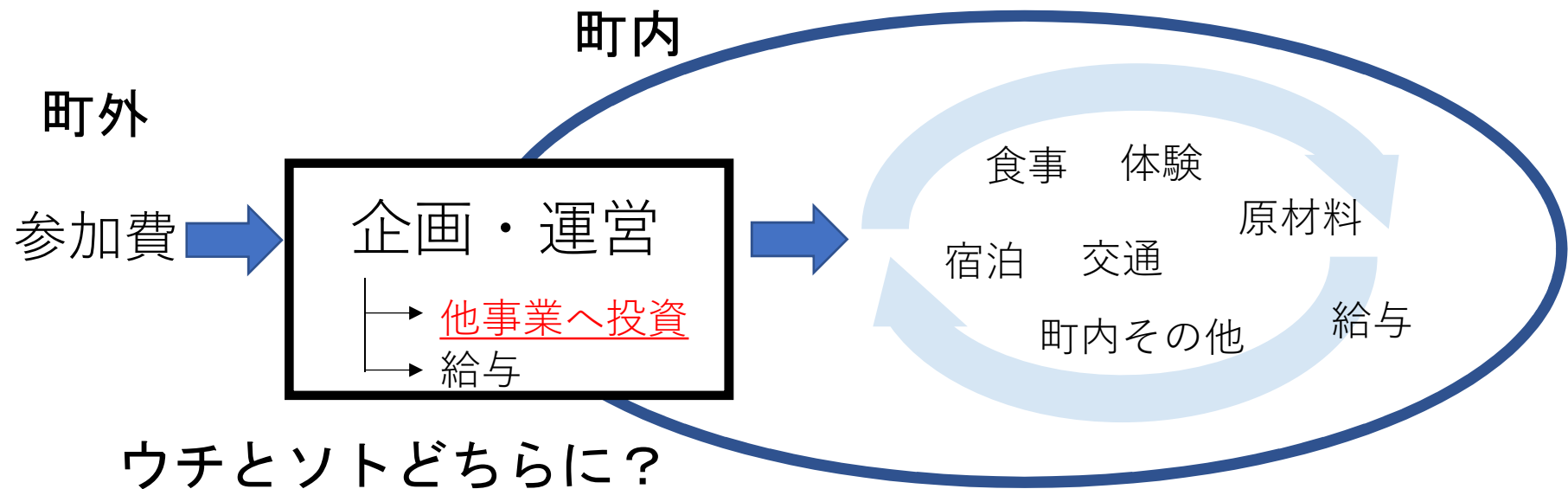
司令塔：まとめ役、調整業務

担い手の候補

目的
長所
短所
利益

町外の旅行会社	観光協会	まちづくり会社
利潤追求	観光振興	地域振興と事業化
ツアーのノウハウ	津別観光のノウハウ	事業化のノウハウ
町外・利潤流出	人手・事業範囲	人手・立上げ直後
町内外で折半	<u>町内に滞留</u>	<u>町内に滞留</u>

域内経済循環を考える (参考：枝廣2018)



町内でお金を回す分、
全員が儲かる

域内で調達すれば、「つべつ」で稼げる

まとめ

- 大切なのは、「細分化」と「差異化」
- 運営主体は「誰」なのか
- 域内で「調達」すれば、「まち」で稼げる
- 他方、町内だけで全ては無理 & それぞれの強み
- 司令塔や調整は誰が行うのか

**→ これからの観光を考える、
ホンネの議論が必要**